

デジタルアーカイブの 新たな展開と可能性 — IIFの動向と活用例から考える —



基調講演 Introduction to IIF : Unlocking the World's Digital Images
= IIF入門：世界中のデジタルイメージを解き放つ

Tom Cramer 氏 (Chief Technology Strategist, Stanford University) 《逐次通訳付》

講演1 日本におけるIIFの受容状況と今後の可能性

永崎 研宣 氏 (東京大学大学院人文社会系研究科人文情報学拠点客員研究員)

講演2 失われた時のウェブを目指して

林 晋 教授 (京都大学文学研究科)

事例報告 京都大学貴重資料デジタルアーカイブの紹介と今後の展望

西岡 千文 特定職員 (京都大学附属図書館研究開発室)

2017年10月18日(水) 13:15-17:00 12:45受付開始

京都大学附属図書館3階ライブラリホール

対象：大学図書館職員および本講演テーマに関心のある方 (無料)

申込方法：申込用Webフォームにご記入の上、お申し込みください。

URL：<https://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/kenshu/?p=4117>

定員：80名 (申込先着順) 10月10日(火)締切



主催：京都大学図書館機構 共催：国立大学図書館協会近畿地区協会

協賛：デジタルアーカイブ学会、大学図書館近畿イニシアティブ、国立大学図書館協会学術資料整備委員会

問合：京都大学図書館機構 (図書館業務改善推進会議人材育成部会) e-mail: kenshu-uke660kulib@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

実施概要

近年、貴重資料等の高解像度な画像データを、国際的な標準として浸透しているIIIF(International Image Interoperability Framework)を利用して公開する機関が増加している。京都大学図書館機構もオープンアクセス推進事業の一環として、IIIF コンソーシアムに参加するとともに、従来進めてきた貴重資料電子化成果のIIIF対応による公開を進めている。

こうした中、本講演会ではIIIFコンソーシアムの活動およびIIIFの概要、デジタル画像の共有による研究事例、IIIFの実装例の報告により、デジタルアーカイブを巡る最新の状況を俯瞰する。また、これにより今後の大学図書館におけるデジタル画像の情報発信、研究における活用の可能性、およびデジタルアーカイブの推進の契機としたい。

講師紹介

Tom Cramer 氏

Chief Technology Strategist,
Stanford University

NAGASAKI Kiyonori

永崎 研宣 氏

東京大学大学院人文社会系研究科
人文情報学拠点客員研究員

HAYASHI Susumu

林 晋 氏

京都大学文学研究科教授

【経歴】

IT関連企業でビジネス開発やコンサルタント業務に携わったのち、Stanford大学に勤務。Director of Middleware and Integration ServiceとしてStanford大学全体の情報基盤構築を担当した。2005年よりStanford大学図書館勤務。現在、Chief Technology StrategistおよびAssociate University Librarian。Stanford Digital Repository責任者であり、Stanford Digital Libraryのサービスシステム開発も統括している。

Hydra Projectの創始者であり、PASIG会議ChairとしてPreservation関連の研究集会を開催している。近年はIIIFの推進に尽力している。

【経歴】

筑波大学大学院博士課程哲学・思想研究科単位取得退学(2000)、博士(文化交渉学, 2014)。東京外国語大学AA研究員、山口県立大学講師・准教授を経て、2010年より(一財)人文情報学研究所主席研究員を勤める傍ら、2009年より東京大学大学院人文社会系研究科研究員、2011年-2016年同大学院情報学環特任准教授、2017年より国際日本文化研究センター客員准教授。

デジタル環境下での仏教学のエコシステムを中心としつつ、人文学全般におけるデジタル技術の活用に関する研究・実践としてデジタル人文学・デジタルアーカイブに携わっており、近年はIIIFの普及に注力している。

【経歴】

立教大学大学院理学研究科理学修士(1978)、筑波大学大学院数学研究科理学博士(1981)、東京都立工科短期大学講師、京都大学数理解析研究所助手、龍谷大学理工学部助教授・教授、神戸大学工学部教授を経て、2005年より現職。2004年-2010年 文部科学省科学技術政策研究所科学技術動向研究センター客員研究官併任。

情報技術を鍵に歴史を社会的に分析し、それを通して現代情報社会を理解することを目指す。そのために数理、情報、思想などの歴史を研究している。また、そのための史料研究のために、SMART-GS プロジェクト や京都学派アーカイブを開発している。

ご案内

- * 基調講演には逐次通訳があります。
- * 講演会終了後、講師の方々をお招きして交流会を開催いたします。
(参加任意)

時間: 17時30分～19時(予定)

場所: 京都大学楽友会館 参加費: 3,500円(予定)

表画像: 国宝『今昔物語集(鈴鹿本)』、奈良絵本コレクション『しほやきぶんしやう』、貴重書『天正遣欧使節肖像画』、お伽草子『付喪神』(すべて京都大学附属図書館所蔵)

⑩ 附属図書館 3階

